

2021 年度 教 員 実 績

凡 例

教員業績は、表象文化論コース、比較文学比較文化コース、文化人類学コースの順に、そして教員名は五十音順で並べられている。各業績を、以下のように、3 つの大きな項目に分けて紹介している。

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 - 1. 単著
 - 2. 編著
 - 3. 共著
- (2) 論文
 - 1. 単著
 - 2. 共著
- (3) 学会、研究会発表
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等その他

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
- (2) 後期課程担当科目
- (3) 大学院担当科目
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

3. 学内行政業務

2021 年度に担当した主な役職、学内委員、特記すべき業務

表象文化論コース

朝倉 友海

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 3. 共著
 - ・『禅的形成及在世界的展開』、何燕生・沈庭(編)、宗教文化出版社(北京)[執筆範囲:「從牟宗三天台學的觀點看西田幾多郎的禅哲学」(王玲玲訳)、363-377頁]
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・「西田のいう「論理」を再考する」、『哲学雑誌』808号、24-41頁
 - ・「意味の変化と観点の重層化」、『ひとおもひ』3号、109-132頁
- (3) 学会、研究会発表
 - ・「東アジア哲学の条件について」、『東アジアにおける哲学の生成と発展』書評会、東アジア藝文書院、2022年3月
 - ・「スピノザ批判としての西田の絶対無」、スピノザ協会・東アジア藝文書院、2021年11月
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・「はじめに」(「特集・異なる近代の可能性:非西欧の視座から」)、『未来哲学』2号
 - ・『ORIMAGARU 織り曲がる』、朝倉美津子、青幻舎[分担執筆、編集]

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初級中国語一列・二列
- (2) 後期課程担当科目
現代哲学(1)／表象文化論特殊研究演習II、現代哲学特殊研究II／世界哲学と東アジアIII
(2)、共通中国語
- (3) 大学院担当科目
文化ダイナミクス演習I

3. 学内行政業務

総合研究棟管理委員会委員、現代思想コース予算委員

一條 麻美子

1. 研究・研究成果の公刊

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初修ドイツ語、ドイツ語初級(演習)、総合科目・表象文化論
- (2) 後期課程担当科目
表象システム論演習
- (3) 大学院担当科目
表象文化史II

3. 学内行政業務

予算委員、ドイツ語部会図書委員

||| 沖本 幸子

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

・「[翁]生成の磁場——方堅・乱拍子・摩多羅神」松岡心平編『ZEAMI』5号、森話社、2021年6月

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・「コロナで変わった？「祭りの在り方」を問い直す」東京大学新聞、2021年11月18日

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミナール文科、ことばと文学Ⅱ、日本語日本文学Ⅰ、演劇論Ⅰ

(2) 後期課程担当科目

伝統芸能論Ⅱ、日本文学、学際日本文化論演習Ⅳ

(3) 大学院担当科目

伝統と創造Ⅰ

3. 学内行政業務

表象文化論コース運営委員、超域文化科学紀要編集委員

||| オデイ、ジョン

1. 研究・研究成果の公刊

(3) 学会、研究会発表

・O'Dea: “The Senses: Active and Passive”, Australasian Association for Philosophy Annual Conference (online), 14 July, 2021.

・O'Dea: “There really are Five Senses”, Australasian Society for Philosophy and Psychology Annual Conference (online), 17 February, 2022.

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

総合科目(L)

(2) 後期課程担当科目

Historical Introduction to Analytic Philosophy

(3) 大学院担当科目

Philosophy of Mind, Readings in Analytic Philosophy

3. 学内行政業務

ALESS/ALESA運営委員、ALESS/ALESA副マネージングダイレクター

||| 加治屋 健司

I. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「岡崎和郎 ポストミニマルとしての HISASHI」『Born Twice: Kazuo Okazaki and Nobuaki Onishi』(MA2 Gallery、2021年)、20-22頁.
- ・「大西伸明 累積するアンチノミー」『Born Twice: Kazuo Okazaki and Nobuaki Onishi』(MA2 Gallery、2021年)、26-28頁.

(3) 学会、研究会発表

- ・「表現と芸術のあいだ：アメリカにおける「芸術の自由」」(アメリカ学会第55回年次大会シンポジウム「表現の自由と不自由のあいだ」、オンライン(慶應義塾大学)、2021年6月5日).
- ・「失われた絵画とアーカイブ 宇佐美圭司絵画の廃棄処分への対応について」(第34回アーカイブ研究会、オンライン(京都市立芸術大学芸術資源研究センター)、2021年6月21日).

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「日本の美術アーカイブの現状」『美術手帖』第73巻1087号(2021年4月)、68-71頁.
- ・「もの派」長谷川祐子編『ジャパノラマ 1970年以降の日本の現代アート』(水声社、2021年)、160-162頁.
- ・「宇佐美圭司 よみがえる画家」展』『教養学部報』(東京大学教養学部)629号(2021年7月1日)、1面.
- ・「展覧会をつくる 「宇佐美圭司 よみがえる画家」展」『東大駒場友の会会報』37号(2021年10月).
- ・「戦後日本の美術言説の豊穡さを伝える労作」『美術手帖』(2021年10月)、202頁.
- ・「アートで知性を拡張し、社会の未来をひらく 芸術創造連携研究機構」『駒場の70年 1949-2020 法人化以降の大学像を求めて』(東京大学出版会、2021年)、282-283頁.

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

英語一列(S)、英語中級(クラス指定ターム型)(A)

(2) 後期課程担当科目

表象文化基礎論演習(S)

(3) 大学院担当科目

表象文化論実験実習I(A)

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

金沢美術工芸大学美術工芸学部日本絵画史特講

3. 学内行政業務

芸術創造連携研究機構副機構長・運営委員、文化資産管理・相談班ワーキング・グループ、美術博物館委員会、建設委員会、『アメリカ太平洋研究』編集委員

||| カペル、マチュー

I. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

2. 編著

- ・CAPEL Mathieu (編)「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、2022年3月、IFRJ-MFJ出版、東京、456頁。

(2) 論文

1. 単著

- ・「Introduction. Notes sur le paysage du cinéma japonais contemporain」、CAPEL M. (編)「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、9-22頁。
- ・「Introduction. Hasumi Shiguéhiko, le film comme événement」、CAPEL M. (編)「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、243-256頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・「Shinji Somai, entailles et lignes d'erre 相米慎二、傷跡と足跡」、Festival de l'Histoire de l'art美術史フェスティバル、Fontainebleau、2021年6月5日。
- ・「Une nouvelle vague du cinéma japonais, mais pourquoi? 日本映画ヌーベルバーグは、なぜ?」、日本在外フランス人会、2021年4月22日。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

【記事】

- ・「日本映画に独特の姿と形をもたらした高度経済成長期という新しいパラダイム」、『淡青』第44号、東京大学広報室、2022年3月、pp. 12-13。

【仏訳】

- ・HASUMI Shiguéhiko 蓮實重彦「Le cinéma comme institution 制度としての映画」、CAPEL M. (編)、「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、305-316頁。
- ・HASUMI Shiguéhiko 蓮實重彦「Cinéma et critique 映画と批評」、CAPEL M. (編)、「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、317-322頁。
- ・HASUMI Shiguéhiko 蓮實重彦「Cinéma et littérature 映画と文学」、CAPEL M. (編)、「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、323-328頁。
- ・HASUMI Shiguéhiko 蓮實重彦「Le récit, la narration et leurs discours 物語、説話、そしてその言説」、CAPEL M. (編)、「Films en miroir. Quarante ans de cinéma japonais 1980-2020 特集 鏡の映画たち：日本映画の40年(1980年～2020年)」、『Ebisu. Études japonaises』、59号、329-338頁。
- ・HASUMI Shiguéhiko 蓮實重彦「La Bête dans l'ombre de Katô Tai. L'eros d'un monde monoculaire 加藤泰『陰獣』 単眼的世界のエロス」、TScHum. Traduction en sciences humaines、2021年9月 <https://tschum.hypotheses.org/463>
- ・KUWADA Kôhei 桑田光平「Être la surface la plus fine qui soit. L'éthique de Miyakawa Atsushi 軽薄なまでに表面であることの倫理 宮川淳をめぐって」、TScHum. Traduction en sciences humaines、2021年7月 <https://tschum.hypotheses.org/452>

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

フランス語初級 TLP(演習) (S,A)、フランス語初級(作文) (A)、映画論 (A)

(2) 後期課程担当科目

表象文化史 (S)、共通フランス語 (10) (会話) (A)、専門英語 (42) / 文化・思想研究演習 I / グローバル教養特別演習 II (11) (PEAK)

(3) 大学院担当科目

文化ダイナミクス実験実習 I / 研究技法トレーニング III (S)

3. 学内行政業務

国際研修委員会副委員長、表象文化論運営委員、GSI プログラム運営委員、GSI 国際卓越大学院プログラム (GSI-WINGS) 運営委員、グローバル地域研究機構 (IAGS) メンバー

河合 祥一郎

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

・日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアとの往還——日本シェイクスピア協会創立六〇周年記念論文集』研究社出版、2021年10月、全246頁(「シェイクスピア初期版本の話者表示 (speech-prefix)」の章を執筆)。

(3) 学会、研究会発表

・日本英文学会第93回大会特別シンポジウム「明治以後の日本におけるシェイクスピア受容」司会及び野村萬斎との共同発表「狂言とシェイクスピア」、他のパネリスト：末松美知子、Daniel Galimore、近藤弘幸、於東京大駒場キャンパス、2021年5月23日
・国際シェイクスピア学会のラウンドテーブルのリーダーと発表：The 11th World Shakespeare Congress: Roundtable 3: Translation: the state of the Field. 他の参加者：Timothy Billings (Middlebury College, USA), Jean-Michel Deprats (University of Paris-Nanterre, France), Tai-Won Kim (Sogang University), Shen Lin (Central Academy of Drama, China) 2021年7月23日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・エッセー：「コロナ禍中の生き方をシェイクスピアに学ぶ」『悲劇喜劇』特集＝シェイクスピアと出会う 2021年5月号 pp. 51-3.
・エッセー：「観客とつながる「場」」『ロスト・イン・パンデミック』後藤隆基編(春陽堂書店、2021年6月) pp. 111-2.
・記事：「新たに浮かぶ女性への視点」、翻訳家・演劇評論家の松岡和子さんシェイクスピア全訳『朝日新聞』2021年6月4日26面
・記事：「名せりふ織り込みウィット利く芝居「ウィルを待ちながら」」Kawai Project vol. 6「ウィルを待ちながら」取材記事、『毎日新聞』2021年6月17日夕刊
・記事：「「ウィルを待ちながら」海外向け新演出」Kawai Project vol. 6「ウィルを待ちながら」取材記事、『読売新聞』2021年6月22日夕刊
・記事：「シェイクスピアの言葉 より際立たせ 河合祥一郎作・演出「ウィルを待ちながら」改訂再演」Kawai Project vol. 6「ウィルを待ちながら」取材記事、『朝日新聞』2021年6月24日夕刊

- ・エッセー：「なぜ、シェイクスピアはバレエにふさわしいか」『ダンスマガジン』2022年3月号pp. 27-29.
 - ・エッセー：「現代社会への警鐘を鳴らす作品」『悲劇喜劇』特集＝2021年の演劇 現在地はどこ？ 2022年3月号pp. 38-39.
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
- ・翻訳：イーニッド・ブライトン『五人と一匹見つけ隊 見つけ隊と燃える小屋のなぞ』ハヤカワ・ジュニア・ミステリ(早川書房)、全317頁。2021年4月20日
 - ・上演：シェイクスピア祭、河合祥一郎訳演出「ヘンリー四世」リーディング公演、出演＝仙崎貴子、白川哲次、梶原航、北澤小枝子、坂川慶成、今井仁美@日本シェイクスピア協会のホームページより1カ月配信、2021年4月24日
 - ・翻訳：ヒュー・ロフティング『ドリトル先生と月からの使い』角川文庫、全304頁。2021年4月23日
 - ・対談：東京二期会オペラ劇場『ファルスタッフ』関連企画 日本シェイクスピア協会×日本ヴェルディ協会 特別オンライン対談 河合祥一郎×小畑恒夫 司会・加藤浩子、YouTube配信開始：2021年6月19日
 - ・上演：Kawai Project vol. 6 河合祥一郎作演出「ウィルを待ちながら インターナショナル・ヴァージョン」出演＝田代隆秀、高山春夫@こまばアゴラ劇場、2021年7月2-11日
 - ・公開講座：演出家・俳優養成セミナー2021演劇大学in沖縄 特別講座『ロミオとジュリエット』について＋演出家西川信廣と対談、2021年7月25日
 - ・公開講座：日本シェイクスピア協会会員限定第3回勉強会、シェイクスピアと翻訳について松岡和子先生と@Zoom Online、令和3(2021)年9月6日
 - ・対談：「一色伸幸対談 震災から10年。彼らひとりひとりの気持ちをドラマに込めて」(第47回放送文化基金賞脚本賞受賞)『HBF放送文化基金報』2021年No.93, pp. 4-7、2021年9月30日
 - ・対談：Speaking of Shakespeare, Conversations with Thomas Dabbs, #21(日本学術振興会、青山学院) YouTube配信開始：2021年11月10日
 - ・翻訳：ヒュー・ロフティング『ドリトル先生の月旅行』角川文庫、全204頁。2021年8月25日
 - ・講演：日英協会オンライン講演会「コロナ時代の生き方をシェイクスピアに学ぶ」2021年9月10日
 - ・翻訳：C・S・ルイス『ナルニア国物語7 最後の戦い』角川つばさ文庫(株式会社KADOKAWA発行)、全252頁。2021年10月13日
 - ・翻訳：ヒュー・ロフティング『ドリトル先生月から帰る』角川文庫、全206頁。2021年12月25日
 - ・翻訳：サマセット・モーム『人間のしがらみ 上下』光文社古典新訳文庫、上巻652頁、下巻666頁。2022年2月20日
 - ・上演台本：野村萬斎演出、戯曲リーディング「ハムレット To be or Not to be」2022年2月27日
 - ・翻訳：エドガー・アラン・ポー『ポー傑作選1 ゴシックホラー編 黒猫』角川文庫、全346頁。2022年2月22日
 - ・対談：『音楽の友』4月号特集「シェイクスピア meets クラシック」pp. 72-74、「対談 河合祥一郎×室田尚子 シェイクスピアの戯曲、オペラそれぞれの魅力とは？」2022年3月18日

・翻訳：エドガー・アラン・ポー『ポー傑作選2 怪奇ミステリー編 モルグ街の殺人』角川文庫、全350頁。2022年3月23日

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
総合科目演劇論Ⅱ
- (2) 後期課程担当科目
表象メディア論、舞台芸術論Ⅰ
- (3) 大学院担当科目
パフォーミング・アーツ論Ⅱ、表象文化論演習Ⅰ

3. 学内行政業務

英語部会教養英語運営班メンバー

韓 燕麗

1. 研究・研究成果の公刊

- (3) 学会、研究会発表
 - ・1)『HHH：侯孝賢』公開記念トーク、K'sシネマ、2021年11月16日。
 - ・2)「香港映画発展史探究」特集『董夫人』の上映後トーク、国立映画アーカイブ、2022年1月16日。
 - ・3)「電影的空間与場所：亞洲導演鏡頭下的東京」、中国東南大学芸術学院冬季学校専門講座、2022年2月18日、25日。（公開講座、招待）
 - ・4)「國別電影的彼岸：中國移民的電影及其身份認同」、香港教育大学、2022年3月17日。（公開講座、招待）
 - ・5)「定鏡凝視下的對話：日本電影『Keiko』（1979）及其他」、中国山西大学文学院、2022年3月19日。（公開講座、招待）
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・「アイデンティティを探し続けて——香港映画の一世紀」、国立映画アーカイブニューズレター第8号、国立映画アーカイブ、2021年11月、pp. 8-11。
 - ・「移民の映画とアイデンティティ——ナショナル・シネマの枠組みを突き破って」、『淡青』第44号、東京大学広報室、2022年3月、pp. 14。
 - ・「『董夫人』：作品とその監督について」、国立映画アーカイブニューズレター第16号、国立映画アーカイブ、2022年3月、pp. 11-13。
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
 - ・（企画・協力）第34回東京国際映画祭「アジアの未来」部門審査員、2021年11月。
 - ・（企画・字幕監修）国立映画アーカイブ「香港映画発展史探究」、2021年12月。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
中国語一列①②
- (2) 後期課程担当科目
表象メディア論、表象文化論実習Ⅱ
- (3) 大学院担当科目
イメージ分析論Ⅰ
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

明治学院大学(中国文学AB)

3. 学内行政業務

中国語部会教務担当、表象後期副主任、表象運営委員

|| 桑田 光平

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「酩酊するエクリチュール——アラン・マバンク『割れたグラス』」、『仏語仏文学研究』、第55号、東京大学仏語仏文学研究会、2022年2月、339-360頁。
- ・« L'homme-boîte de Kôbô Abé et le médium photographique », Revue internationale de Photolittérature, no.4, オープンアクセス、2022年2月。(http://phlit.org/press/?articlerevue=lhomme-boite-de-kobo-abe-et-le-medium-photographique)
- ・« Pleasure and Fatigue of the Barthesian Text », The Pleasure in/of the Text: About the Joys and Perversities of Reading, Peter Lang, 2021年9月、61-66頁。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「準備としての人生、あるいは再制作」、『コメット通信』17号、水声社、2021年12月、3-4頁。
- ・「海外文学・文化回顧 2021 フランス」、『図書新聞』、2021年12月18日号。
- ・「フランス文学」、『ブリタニカ国際年鑑』、ブリタニカ・ジャパン、2021年5月、216-217頁。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・パスカル・キニャール『ダンスの起源』(堀切克洋・パトリック・ドゥヴォスとの共訳)、水声社、2021年12月、全227頁(うち174-218頁)。
- ・ロラン・バルト『恋愛のディスクール セミナーと未刊テキスト』(桑名真吾・鈴木亘・須藤健太郎・内藤真奈・平田周・本田貴久・宮脇永吏との共訳)、水声社、2021年10月、全562頁(うち9-45, 459-465頁+あとがきにかえて)。
- ・ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『受肉した絵画』(鈴木亘との共訳)、水声社、2021年5月、全248頁。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

美術論、フランス語一列①、フランス語一列②

(2) 後期課程担当科目

表象文化論実習 I

(3) 大学院担当科目

表象文化論実験実習 II / 地域文化研究特殊研究 II

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

専門文献研究(上智大学大学院)、批評と文学(明治学院大学)

3. 学内行政業務

美術博物館委員

1. 研究・研究成果の公刊

(3) 学会、研究会発表

- ・「性の政治と『物質化される身体』」ジュディス・バトラ『問題＝物質となる身体』オンライン合評会、2021年7月25日。
- ・「報告：トランスジェンダーの権利」日本学術会議法学会委員会・社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会（第25期第3回、オンライン）、2021年9月11日。
- ・“‘She isn’t a feminist’: The issue of “improper objects” of Japanese feminism’, Asia Pacific Conference 2021 (online), 2021/12/4（査読有）。
- ・「トランスナショナルな運動としてのトランスフォビア」立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会（オンライン）、2021年12月18日（招待講演）。
- ・「インターセクショナリティと連帯の可能性」関西学院大学〈多様性との共生〉研究センター報告、2022年1月8日（招待講演）。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「VOGUEとまなぶフェミニズム」シリーズVol.11～19. VOGUE CHANGE. <https://www.vogue.co.jp/tag/vogue-feminism>
- ・「コロナとケア」(1～3回) 新婦人しんぶん、3月13日号、4月10日号、5月15日号。
- ・「ジェンダー、セクシュアリティ入門：性と身体の高様性を考える」NHK文化センターオンライン講座（全6回）、2021年5月21日～10月8日。
- ・「「LGBTQ」とフェミニズム」(レクチャー) 東京レインボープライド2021 プライドウィーク企画「LGBTQの今を知る15選」<https://www.youtube.com/watch?v=9Fob7zBObFY>
- ・「アートとジェンダー」(対談、モデレーター：山本浩貴) ARTNewsJapan、2021年10月17日収録。
- ・「「多様性」はどこにあるのか：インターセクショナリティという観点」中央大学ダイバーシティウィーク講演、2021年11月13日。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

表象文化論（セクシュアリティ論）

(2) 後期課程担当科目

表象文化史

(3) 大学院担当科目

文化ダイナミクス演習III

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

国際基督教大学「ジェンダー、セクシュアリティと批評理論」、東大EMP講座24期、25期、金曜特別講座「AIDS危機からコロナ・パンデミックを見る」(一回講義)、都留文科大学「選り取ったわけではない共生の不安を生きる」(一回講義)

3. 学内行政業務

ダイバーシティ教育タスクフォースメンバー

|| 竹峰 義和

I. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・ 畠山寛、吉中俊貴、岡本和子編『ドイツ文学の道しるべ——ニーベルンゲンから多和田葉子まで』ミネルヴァ書房、2021年4月(担当：ニーチェ『悲劇の誕生』(pp. 50-51)、『ツァラトゥストラはこう語った』(pp. 54-55)、ユンガー『総動員』(pp. 100-101)、「批評文学の系譜——レッシングからアドルノまで」(pp. 176-179))。
- ・ 堀潤之、木原圭翔編『映画論の冒険者たち』東京大学出版会 2021年10月(担当：第I部「ジークフリート・クラカウアー：偶然、事物、リアリズム」(60-72頁)、第IV部「ミリアム・ハンセン：映画経験とモダニティ」(199-209頁))。

(2) 論文

1. 単著

- ・ 「表象の自己贖罪——アドルノ美学とポストモダニズムの接点」、『現代思想』49巻7号、2021年5月、219-226頁。
- ・ 「ミッキーマウスの経験——後期ベンヤミンにおける経験概念」、『ベンヤミンの経験への問い：1930年代を中心に』(日本独文学会研究叢書144巻)、2021年10月、43-53頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・ 「引用と記憶の弁証法——ヴァルター・ベンヤミンと大西巨人との接点」、『芸術運動と知識人研究会第一回例会、2022年3月13日(オンライン)』。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・ 「現代における救済や解放はいかにして可能か——オルタナティヴな歴史記述の実践としての『バサージュ論』」(高橋順一、柿木伸之との鼎談)、『図書新聞』3523号、2021年12月。
- ・ 「[オープニング対談] 卒業生監督×映画研究者：Jホラーの巨匠と「進振り」の素敵な関係とは？」(中田秀夫との対談)、『淡青』44号、2022年3月。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初級ドイツ語、ドイツ語初級演習(TLP)

(2) 後期課程担当科目

表象文化基礎論

(3) 大学院担当科目

文化クリティシズムI

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

明治学院大学「芸術論」

3. 学内行政業務

教養学部報委員、TLP委員

|| 田中 純

I. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・駒込武編『「私物化」される国公立大学』、岩波ブックレット、2021年。担当箇所：田中純「権威主義化する大学「経営」イデオロギー」、77～89頁。
- ・オンリー・ハーツ編『David Bowie: Ziggy Stardust and The Spiders From Mars. A Film by D. A. Pennebaker』パンフレット、オンリー・ハーツ、2022年。担当箇所：田中純「「自殺者」への通過儀礼」、1～4頁。
- ・石井洋二郎編『リベラルアーツと外国語』、水声社、2022年。担当箇所：田中純「詩という謎語をめぐって——機械翻訳の時代におけるリベラルアーツとしての言語教育」、251～267頁。
- ・酒井邦嘉監修・日本科学協会編『科学と芸術——自然と人間の調和』、中央公論新社、2022年。担当箇所：田中純「科学と芸術をつなぐ多孔性モデル——生態学的都市論から見た世界」、261～277頁。

(2) 論文

1. 単著

- ・田中純「バラ言語のキマイラたち——歌声の可視化をめぐって」、『UP』584号(2021年6月号)、東京大学出版会、2021年、40～47頁。
- ・田中純「自閉症者と文学・芸術をめぐる問題圏——認知文学研究からプリベンション論へ」、『UP』587号(2021年9月号)、東京大学出版会、2021年、43～49頁。
- ・田中純「「カミ」なき時代の影向図——「かげ」の論理」、『UP』590号(2021年12月号)、東京大学出版会、2021年、41～47頁。
- ・田中純『「イメージの自然史」から「イメージの記憶(かげ)」へ——最終回にあたって』、『UP』593号(2022年3月号)、東京大学出版会、2022年、12～19頁。
- ・田中純「磯崎新論(シン・イソザキろん) 前口上 第1章 沈んだ島、牡丹の庭』、『群像』2022年1月号、講談社、2021年、35～50頁。
- ・田中純「磯崎新論(シン・イソザキろん) 第2章 前衛の季節』、『群像』2022年2月号、講談社、2022年、407～418頁。
- ・田中純「磯崎新論(シン・イソザキろん) 第3章 (反)重力の衝撃』、『群像』2022年3月号、講談社、2022年、432～441頁。
- ・田中純「磯崎新論(シン・イソザキろん) 第4章 (祖)父なる建築家』、『群像』2022年4月号、講談社、2022年、370～378頁。
- ・Jun Tanaka. “Couleurs du quotidien dans les photographies de Shigeo Gochô”. Traduit par Akihito Negi. Revue des Sciences Humaines, n° 345/janvier-mars 2022 : “Le quotidien au Japon et en Occident”, pp.85-98.

(3) 学会、研究会発表

- ・田中純「アーカイヴの生政治——不死のテクノロジー」、第4回多摩美術大学アートアーカイヴシンポジウム「アーカイヴの思想」、2021年12月4日(多摩美術大学およびオンライン)、招待講演。

(4) 書評、記事、エッセイ、その他

- ・田中純「「根本的な問題」をめぐって——大学の主体とは誰か」、『学園』109号(2021年新生歓迎号「特集・学問と組織」)、2021年、59～61頁。
- ・田中純「謎としての誠実さ(l'honnêteté)をめぐって」、『表象』15号、月曜社、2021年、6～13頁(巻頭言)。
- ・松浦寿輝・沼野充義・田中純「徹底討議 20世紀の思想・文学・芸術——第7回 「映像」

の運命」、『群像』第76巻第4号(2021年4月号)、講談社、2021年、413～451頁。

・松浦寿輝・沼野充義・田中純「徹底討議 20世紀の思想・文学・芸術——第8回 世界内戦2.0」、『群像』第76巻第7号(2021年7月号)、講談社、2021年、341～380頁。

・松浦寿輝・沼野充義・田中純「徹底討議 20世紀の思想・文学・芸術——第9回 批評の革新」、『群像』第76巻第10号(2021年10月号)、講談社、2021年、277～316頁。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初修外国語(ドイツ語)

(2) 後期課程担当科目

表象システム論

(3) 大学院担当科目

表象技術論

3. 学内行政業務

超域文化科学専攻長、表象文化論コース主任

長木 誠司

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

・『オペラ 愛の壊れるとき』(音楽之友社、2021)224ページ(ISBN: 9784276355330)

(2) 論文

1. 単著

・「歓喜力行団KdFの活動について」戸ノ下達也、洋楽文化史研究会編『展開する厚生音楽：戦争・職場・レクリエーション』(金沢文圃閣、2021.6)978-4-909680-88-4：pp. 141-154.

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(148)「ヴィルヘルム・プラーゲ」ができるまで(その4)、レコード芸術 70(4), pp. 57-60, 2021-04

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(149)ライヴネス、レコード芸術 70(5), pp. 63-66, 2021-05

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(150)ライヴネス(その2)(2021)、レコード芸術 70(6), pp. 55-58, 2021-06

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(151)ライヴネス(その3)(2021)、レコード芸術 70(7), pp. 57-60, 2021-07

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(152)もういくつかのピエロ・リュネール(2021)、レコード芸術 70(8), pp. 55-58, 2021-08

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(153)もういくつかのピエロ・リュネール(その2)(2021)、レコード芸術 70(9), pp. 65-68, 2021-09

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(154)もういくつかのピエロ・リュネール(その3)(2021)、レコード芸術 70(10), pp. 55-58, 2021-10

・ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(156)もういくつかのピエロ・リュネール(その4)(2021)、レコード芸術 70(12), pp. 65-68, 2021-12

(3) 学会、研究会発表

・洋楽文化史研究会第109回例会：『厚生音楽資料全集』発刊記念シンポジウム 報告「歓喜

力行団KdFの活動について」2022年1月23日(日)14:00～17:00(Zoomによるオンライン開催)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初修ドイツ語、TLPドイツ語 総合科目「音楽論」
- (2) 後期課程担当科目
表象文化論
- (3) 大学院担当科目
表象文化論実験実習Ⅲ

3. 学内行政業務

ピアノ委員長、オルガン委員

中井 悠

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 1. 単著
 - ・ *When David Tudor Went Disco: The No Audience Laser Concert Without the Laser at Xenon* (Copenhagen, Denmark: Topos, 2021)
 3. 共著
 - ・ « Sounding the Peripheries/Das Ausloten der Peripherien » *Teasing Chaos: David Tudor* (Heidelberg, Germany: Kehrer Verlag, 2021) 104-135.
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・ « Late Realizations » *Echo: Journal of Music, Thought and Technology* (Ghent, Belgium: Orpheus Instituut, 2021)
- (3) 学会、研究会発表
 - ・ « Migration of Monobirds » *Archives Public Program: Experiments in Art and Technology, India 1960s & 70s*, National Institute of Design, India, 2021年10月1日、オンライン。
 - ・ 「サイド・プロジェクト立ち上げシンポジウム」2022年2月13日、札幌文化芸術交流センター、札幌
 - ・ « Reminded by Reminded by the Instruments » Italian Musicological Society, Italy, 2022年3月24日、オンライン。
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・ 「アーカイブのゆとり：インド国立デザイン研究所アーカイブ機関「EXPERIMENTS IN ART AND TECHNOLOGY: INDIA 1960s & 70s」国際連続会議レポート」『repre』第44号、オンライン。
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
 - ・ コンサート・パフォーマンス：Zoomusic No.1、2021年7月12日、オンライン。
 - ・ コンサート・パフォーマンス：Zoomusic No.2、2022年2月4日、オンライン。
 - ・ ヴァーチャル・レジデンシー制作：Zoomusic、ヴァージニア大学大学院作曲科コース、2021年9月～2022年3月、オンライン。
 - ・ 2枚組LP：Monobirds: From Ahmedabad to Xenon, TOPOS, 2021

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

文理融合セミナー「身体と芸術：アルシ・コレオグラフィーズ」「メディアと芸術：zoom音楽」

(2) 後期課程担当科目

表象メディア演習「経験の上演：プラグマティズムとパフォーマンスの系譜学」

(3) 大学院担当科目

パフォーミング・アーツ論Ⅱ「影響の考古学」

3. 学内行政業務

学生委員会

Ⅲ 乗松 亨平

Ⅰ. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

2. 編著

・沼野充義・沼野恭子・平松潤奈・乗松亨平編『ロシア文化 55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2021年。「東と西」(12-15頁)「コーカサスのとりこ」(28-31頁)「宇宙」(32-35頁)第4章概説(106-107頁)第5章概説(158-159頁)「余計者」(172-175頁)を分担執筆。

(2) 論文

1. 単著

・「ポストモダン右翼は哲学の夢をみるか?：アレクサンドル・ドゥーギンの理論と実践」、『現代思想』6月号、2021年、85-93頁。
・「ドストエフスキーと共住の思想史：他者との非対話的な関係によせて」、『現代思想』12月臨時増刊号、2021年、239-247頁。

(3) 学会、研究会発表

・「書評パネル 宮崎裕助『ジャック・デリダ 死後の生を与える』」、表象文化論学会第15回研究発表集会、2021年12月5日、オンライン

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・「松下隆志著『ナショナルな欲望のゆくえ——ソ連後のロシア文学を読み解く』」、『ロシア語ロシア文学研究』第53号、2021年、135-142頁。
・「アレクサンドル・エトキント『悪の自然』」、『現代思想』1月号、2022年、77-83頁。
・「トラウマとイデオロギー：マルレーヌ・ラリュエル『ファシズムとロシア』評」、『ゲンロンα』[web]、2022年
・「フェイクニュースを信じるのはだれか」、『コメット通信』第20号[web]、2022年、8-10頁。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

ロシア語科目

(2) 後期課程担当科目

言語芸術論Ⅰ、表象文化論実習Ⅱ、ロシア東欧研究Ⅰ

(3) 大学院担当科目

表象文化論演習Ⅰ

3. 学内行政業務

ロシア語部会教務委員、後期課程表象文化論コース主任、表象文化論コース教務委員、国際人材養成プログラム(GSP)運営委員

針貝 真理子

1. 研究・研究成果の公刊

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・「自由」をめぐる葛藤——音楽劇『エグモント』上演にあたって(『つながれ！ベートーヴェン コロナ禍に向き合いながら駆け抜けた、藝大・ベートーヴェン生誕250年記念イヤーの記録』東京藝術大学出版会、2022年)

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・音楽付随劇『エグモント』上演(東京藝術大学演奏芸術センター主催、ドラマトゥルクとして制作)
- ・オーディオシアター『マミマニア』上演(Pawonsメンバーとして制作)
- ・大手町アカデミア×オルケストル・アヴァン＝ギャルド『いま、ベートーヴェンを熱く語ろう』出演(読売新聞社)

2. 教育実績

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

東京藝術大学音楽学部「音楽文芸演習」「ドイツ文学」「音楽文芸博士専門研究」「原典特殊講義」「原典研究」「独語初級」「独語中級」「声楽特殊研究」「音楽文芸総合演習」、慶應義塾大学経済学部「ドイツ語」、慶應義塾大学商学部「ドイツ事情」

3. 学内行政業務

前任校で学内行政業務に従事

星野 太

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

・『美学のプラクティス』水声社、2021年、全232頁。

3. 共著

- ・長谷川祐子編『ジャパノラマ——1970年以降の日本の現代アート』水声社、2021年(担当:「生を与える——日本のサブカルチャーにおける静止画の潜勢力」171-174頁)。
- ・Yuko Hasegawa (ed.), *Japanorama: New Vision on Art Since 1970*, Suiseisha, 2021 (“Giving Life: The Latent Power of Still Images in Japanese Subculture,” pp. 166-168).

(2) 論文

1. 単著

・「ポストモダンの幼年期——あるいは瞬間を救うこと」『現代思想』2021年5月号、22-31頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・“Secret and Translation: Revisiting Tosaka Jun’s Philosophy of Technology,” 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS), Ghent University (online), August 27, 2021.

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・[エッセー]「食客論——①共生」『群像』2021年4月号、314-327頁。
- ・[エッセー]「食客論——②孤食」『群像』2021年6月号、326-339頁。
- ・[エッセー]「食客論——③口唇」『群像』2021年8月号、500-513頁。
- ・[エッセー]「食客論——④食客」『群像』2021年10月号、376-388頁。
- ・[エッセー]「食客論——⑤海賊」『群像』2021年12月号、396-408頁。
- ・[批評]「Open My Glade——映像インスタレーションと観客のコレオグラフィ」、『ピピロッティ・リスト: Your Eye Is My Island』特設ウェブサイト、水戸芸術館現代美術ギャラリー、2021年12月21日。
- ・[批評]「VRと国家」『美術手帖』2022年2月号、210-215頁。
- ・[エッセー]「食客論——⑥異人」『群像』2022年2月号、456-468頁。
- ・[書評]「歴史的ア・プリオリとしての言語——國分功一郎・千葉雅也『言語が消滅する前に』」『新潮』2022年3月号、178-179頁。
- ・[エッセー]「食客論——⑦味会」『群像』2022年4月号、445-459頁。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・[鼎談]「いま共に生きることを問う」(山崎亮、國分功一郎、星野太)、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター(UTCP)」(オンライン)、2021年5月29日。
- ・[登壇]「〈ことば〉と新たに会うために」(磯部涼、小田原のどか、高山羽根子、星野太、佐々木敦)、LOFT9 Shibuya(オンライン)、2021年6月23日。
- ・[シンポジウム]「『裏日本』から戦後を再考する」、カルチュラル・タイフーン2021、金沢21世紀美術館、2021年6月27日。
- ・[鼎談]「日本の現代アートのパノラマ」(長谷川祐子、小林康夫、星野太)、代官山蔦屋書店(オンライン)、2021年7月25日。
- ・[対談]「アートと文学」(小林エリカ、星野太)、ARTnews JAPAN、2021年7月30日収録。
- ・[対談]「アートと科学」(日比野愛子、星野太)、ARTnews JAPAN、2021年8月30日収録。
- ・[対談]「アートと宗教」(谷口昌良、星野太)、ARTnews JAPAN、2021年9月6日収録。
- ・[シンポジウム]「カトリック・マラーの哲学」、脱構築研究会(オンライン)、2021年9月10日。
- ・[対談]「アートと医学」(稲葉俊郎、星野太)、ARTnews JAPAN、2021年10月8日収録。
- ・[対談]「縛られたプロメテウス アーティストトーク」(小泉明郎、星野太)、山口情報芸術センター、2021年10月24日。
- ・[対談]「2021年の声のライブラリー②」(高橋睦郎、星野太)、日本近代文学館、2021年11月12日収録。
- ・[対談]「芸術／批評のポリティクス」(星野太、沢山遼)、NADiff a/p/a/r/t、2022年2月12日。
- ・[座談会]「美術という“謎”」(沢山遼、中尾拓哉、星野太)、科学技術広報研究会(JACST)隣接領域と連携した広報業務部会(オンライン)、2022年2月15日。
- ・[対談]「崇高とインスタレーション」(大岩雄典、星野太)、PARA(オンライン)、2022年2月17日。
- ・[対談]「高橋直宏展「Undertaker」対談」(高橋直宏、星野太)、金沢アートグミ(オンライン)、2022年2月19日。
- ・[対談]「ことばと芸術、ことばの芸術」(星野太、佐々木敦)、代官山蔦屋書店、2022年2

月22日。

- ・[対談]「能×現代音楽」(青木涼子、星野太)、六本木アートカレッジ(オンライン)、2022年3月21日。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミナール文科、現代思想

(2) 後期課程担当科目

倫理宗教論演習、現代哲学特殊研究、表象文化論特殊研究演習、専門フランス語

(3) 大学院担当科目

文化創造論、生命と尊厳

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

東京藝術大学「キュレイトリアル&アートセオリー研究」、早稲田大学「ゼミナールⅡ」

3. 学内行政業務

超域文化科学紀要編集委員、人間の安全保障プログラム(HSP)運営委員

||| 森元 庸介

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・泉水浩隆編『翻訳・通訳の過去・現在・未来 多言と多文化を結んで』三修社、2022年(そのうち「心の声が聞こえてしまう 藤子・F、十蘭、ポイエから」(99-117頁)を分担執筆)。

(2) 論文

1. 単著

- ・「「停思快」について 決疑論から芸術論のひとつ手前へ」、『パトリスティカ 教父研究』第24・25号、2022年、79-95頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・「予見と行動、あるいはイメージの内乱」、シンポジウム「歓待・倒錯・共犯性 ピエール・クロソウスキーの思想をめぐって」(東京大学UTCP他／オンライン)、2021年5月8日。
- ・「聞こえないはずの声が聞こえるとき」(第38回土曜自由大学／清泉女子大学人文科学研究／品川区、オンライン)、2021年5月22日。
- ・「西洋はいかにして演劇を許し、芸術を愛するようになったか 決疑論と美学の誕生」(日仏演劇協会／オンライン)、2022年1月21日。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「ある造語から」、『コメット通信』第11号、2021年、10-11頁。
- ・「予見と行動 あるいはイメージの内乱」、『コメット通信』8月臨時増刊号、2021年、30-32頁。
- ・「オーヴァーラップ」、『コメット通信』第19号、2022年、15-16頁。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

フランス語一列、フランス語二列、フランス語特修

(2) 後期課程担当科目

映像芸術論I、フランス文学テキスト分析、共通フランス語(精読)

(3) 大学院担当科目

文化制度論II、研究技法トレーニングI、Supervised Readings II

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

フランス語学フランス文学特殊講義(文学部)、フランス近世文学研究(人文社会系研究科)、
演習F7(立教大学文学部)、文学講義(立教大学文学部)、フランス語II(放送大学)